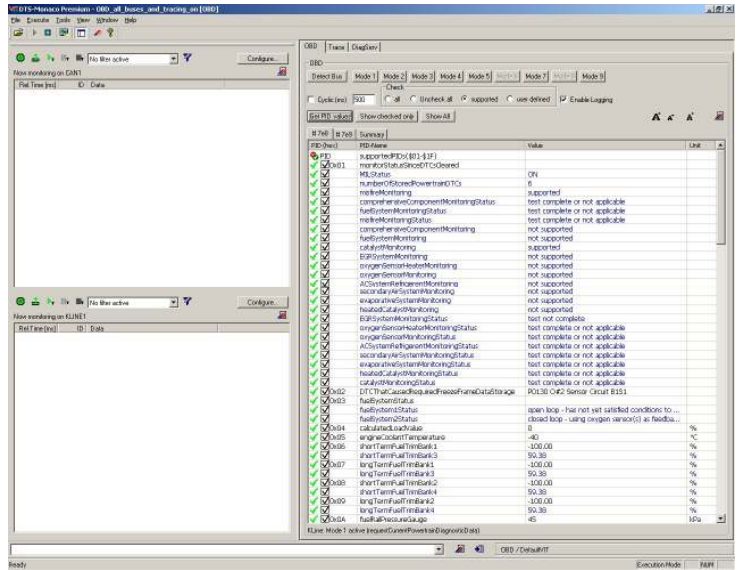


DTS-OBDD

OBDD機能の検証・解析ツール

規格に準拠したツール

昨今では、全ての車の情報をスキャンツールなどを使用して常時検索できるように設定することがOEMに望まれています。例えば排気ガス排出のガイドラインに沿っているかなどがチェックされるケースです。OEM、ECUサプライヤは、OBDD機能のインプリメントとテストにかかるコストを考慮する必要があります。このコストと時間を最小限に抑えるためにも、簡単に使えるうえに信頼できるツールが重要です。



左ウィンドウは通信データの表示、右ウィンドウでモード毎のデータ表示

インプリメントと対応アプリケーション

DTS-OBDDは、OBDDテストの全体範囲をビジュアルにカバーするツールです。スキャンツールのように、車の情報を検索し、またデータをログ・解析も可能です。

- OBDDモードの通信検証
- エラーのないデータコンテンツの検証
- ECUのフォルトメモリ(fault memory)の解析
- 計測値レベルでの通知された問題点の調査
- 選択した値を周期的に取得
- バスレベルでの通知問題の調査

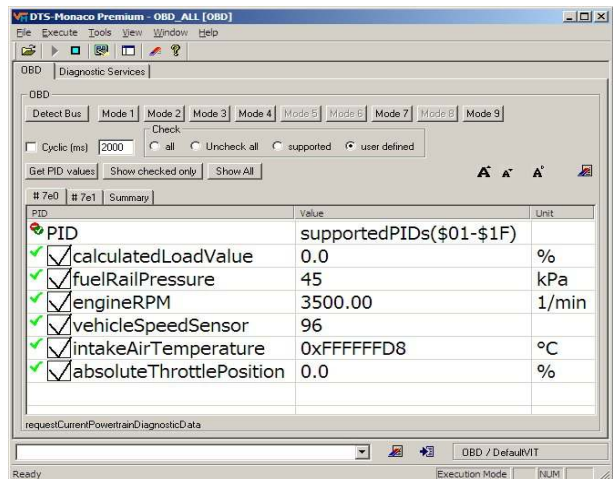
メリット

Future-safe:

DTS-OBDDは、OBDD規格に沿った変更を簡単にインテグレートできるデータベースが基本になっています。ODXのために開発されたこのデータベースは、ODXファイルとしてOBDD標準の規定に完全に対応することができます。また、メーカー特定データと標準以外のデータをデータベース内に統合することもできます。

Simple:

従来のスキャンツールとは異なり、ユーザはDTS-OBDDを使って期待するフォームでのOB情報へのアクセスが可能です。つまり、スキャンツールより正確に必要なデータをクリアに表示できます。



Analytical(分析):

DTS-OBDDは、通知された問題を迅速に分析できる便利なツールです。データレベルで、シンボリック名を使用して標準に沿ってパラメータを変更したり、ECUからの応答をモニターすることができます。必要があれば、バストラフィックレベルでの解析も可能です。計測されたデータとバス通信はログすることができるので、後で解析したり加工することもできます。

DTS-OBDD

OBD機能の検証・解析ツール

概要と仕様

- OBDの全モード対応
- データドリブン- データのインテグレーションとメンテナンス
- 対応するPIDの表示と解析
- 直感的なユーザインターフェイスでOBDデータを表示
- 数字のフォームやグラフィック(ゲージ、バーグラフ、サーモメータ他)
- 必要なデータを選択表示
- ECU情報の比較表示
- 走行中の使用を想定して、大きいフォント表示も可能
- 計測した値と通信内容のログが可能
- 車載OBD IIコネクタに直接プラグ可能なインターフェイスを用意
(右図 EDICblue)



テクニカルデータ

対応標準規格	<ul style="list-style-type: none"> ■ ISO 15765-4 ■ ISO 14230-4 ■ ISO 9141-2 ■ ISO 22901-1 ■ SAE J1979 ■ SAE J2012 ■ ASAM MCD-2D v2.0.1 (ODX) ■ ISO 22900-2 D-PDU API
ハードウェアインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ EDIC ファミリー ■ Softing, ETAS, Vector CAN interface ■ D-PDU API, SAE J2534 interface
テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> ■ OBD-Autodetect (K-Line, CAN) ■ OBD via CAN ■ OBD via K-Line
使用環境	Windows 7, 8, 10
納品内容	ソフトウェア(CD), example OBD プロジェクト, OBD データベース(ISO 15675-4, ISO 14230-4, ISO 9141-2), マニュアル